

田中研新聞

第42号

2017年
2月10日発行

2016年12月10日号

甲南大学知能情報学部田中研究室 毎月発行
http://carnation.is.konan-u.ac.jp
編集長・岡田 航大 (M1)
編集委員・橋本 渉 (B4)

卒論発表会無事に終了

卒論指導を終えて

今年度の卒業研究指導を終え、簡単に総括したいと思います。今年度は、ほぼ全員でKORoの制作にあたり、それに伴った卒論もKORoに関連するものとなりました。KORoの今年度の成果については、別の機会に詳しい総括をしたと思います。

それぞれの研究がKORoへの実装を伴うものでしたので、11月末までに実装を終え、その後は論文執筆に専念してもらいように指導してきました。それはほぼ実現できましたが、無人での連続稼働を行う際には、様々な問題点が出てきました。LeapMotionの電源が切れる、自動的に立ち上がらない部分がある、目が表示できないなど、研究テーマそのものではない問題点があつたからとら出てきました。それらの多くは岡田君が解決してくれ、図書館入口での無人稼働可能なロボットが一応出来上がったのは岡田君の功績が大きいと思います。

論文に関しては、厳しい目でチェックを受けた文書を残す訓練という気持ちで指導してきました。全体構成は良いか、後輩や他人が読んで必要な情報が書かれているか、読んでいて、不快な文体やフォーマットはないか、などに配慮して赤を入れしました。中には、何度指導しても同じような問題が別の個所にあっても全く改善しないものもあり、人の指導を受けるに値しないといわれても仕方のないものもありました。

Pを行うために、私は皆さんに、自分で予定を作ってもらいました。しかし、残念ながら、自分で作った予定でありながら、その半分も実現できない人がほとんどです。この卒業研究で、自分の能力や知識を客観的に把握することが曲がりなりにもできたと思えます。いや、そう期待します。今後、皆さんが社会に出て、仕事をするときには、自分の力量をしっかりと把握して、それに基づいて計画を立て、実行するということが必ず求められます。自分でできもしない計画を立てれば、期末のチェックで不可がきます。逆に、安全を見て、非常に簡単な計画にすると、やる気がないという評価がきます。Pができるためには、自分を知らなければならない、その意味で、卒業研究の役割があると思えます。

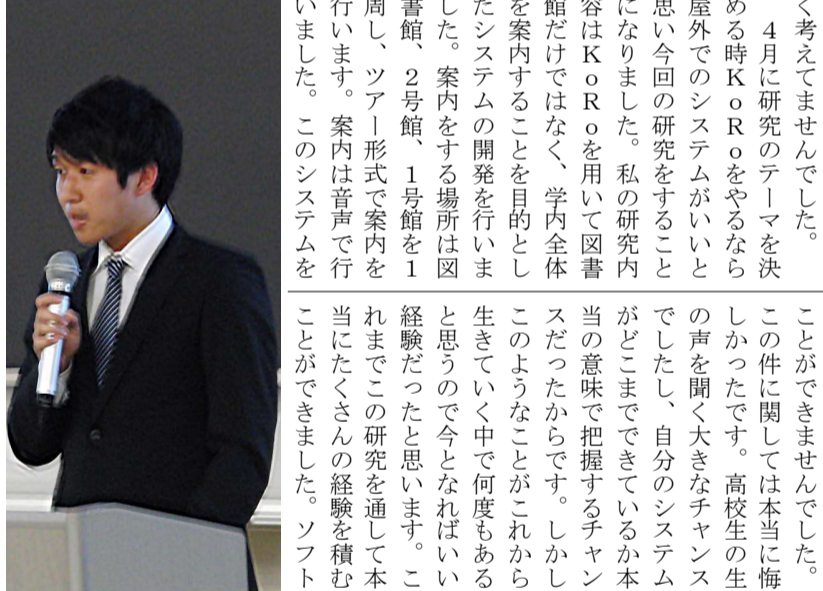
宮尾翔太

1月30日の卒業論文発表会の当日、家を出る前に、大きめのグラスに入ったコーヒートをブラックで一気に入飲み干したためか、胃がむかむかして気持ち悪いという症状になり、体調はすこぶる絶不調でした。



伊東一樹

卒論発表を終えて、この1年間本当に充実した時間を過ごせたと思います。これまでの学生生活サークルの活動にほとんど力を注いできたので正直研究をどのようなのをするかなど全く考えてませんでした。



う症状になり、体調はすこぶる絶不調でした。研究室に着いてからすぐ、卒業論文発表会が始まる寸前まで、プレゼンテーションで使用するパワーポイントの資料や発表文を考へ、文字の追加や訂正など

夏オープンキャンパスで披露したのですが、当日全くうまくいかず本当に悲惨な結果になりました。秋のオープンキャンパスこそ挽回をと思ったのですがSegwayがパンクしてしまうというトラブルが発生してしまい、披露することができませんでした。

この件に関しては本当に悔しかった。高校生の生の声を聞く大きなチャンスでしたし、自分のシステムがどこまでできていたのか本当の意味で把握するチャンスだったからです。しかしこのようなことがこれからは生きていく中で何度もあると思うので今となればいい経験だったと思います。これまでこの研究を通して本当にたくさんの経験を積むことができました。ソフト

金澤陽介

卒論発表会で、自分の発表が終わった瞬間はとても達成感がありました。発表自身は多少満足できなかった部分もありますが、自分としてはまあまあ上手く話すことができたのではないかと思います。それよりもこの約1年間取り組んできたことを終えることができたと達成感でいっぱいでした。今振り返ってみると、研究室に配属されてから様々なことがありましたが、卒論内容は、KORoを紹介してプログラムで通話を行い、KORoに興味を持ってもらおうというものでした。



卒論発表を終えて、この1年間本当に充実した時間を過ごせたと思います。これまでの学生生活サークルの活動にほとんど力を注いできたので正直研究をどのようなのをするかなど全く考えてませんでした。

卒論発表を終えて、この1年間本当に充実した時間を過ごせたと思います。これまでの学生生活サークルの活動にほとんど力を注いできたので正直研究をどのようなのをするかなど全く考えてませんでした。

た。しかしプログラムを組んだ結果、ノイズや遅延などといった問題でなかなかうまくいきませんでした。他のプログラミング言語を試したり、様々な試行錯誤の末、最終的にはSkyperを用いて研究を進める結果となりました。オープンキャンパスでは、自分のシステムと他のシステムとの連携がうまくいかなかったため、見せることができませんでした。苦労することが多かったです。

卒論発表を終えて、この1年間本当に充実した時間を過ごせたと思います。これまでの学生生活サークルの活動にほとんど力を注いできたので正直研究をどのようなのをするかなど全く考えてませんでした。

島津直道

卒論発表を終えて、私は「田中研究室で頑張ってきた良かった」と思っています。理由は大きく分けて3つあります。

1つ目は、Koroプロジェクトのリーダーとして活動した経験です。正直に言って、リーダーの仕事が出来たとは思っていません。全員のスケジュールをしっかりと管理することが出来ていなかったし、その結果、新システムの実装が遅れることになってしまいました。しかし、卒論に集中する時期に入り、プロジェクトの中心が岡田さんに変わってから実装までの進捗が早く、少し悔しい気持ちになりました。岡田さんのプロジェクト成功させる姿勢から、システムを実装するまでに考えるべきことはどんなことを学ぶことができました。

2つ目は、就職活動中、自分が取り組んでいる研究や、研究室で取り組んでいるプロジェクトについて、胸を張って話すことが出来たということです。私は部活にも入っておらず、三年生まで特にこれと言って取り組んできたことがあまりなかったため、エントリーシートなどを書く際も、書きたかった内容があまりなかったのではないかと密かに思っています。これらの経験は他の研究室で出来なかった経験であると考えます。

3つ目は、卒論発表に余裕をもって臨むことが出来たということです。田中先生のご指導のおかげで、卒論の執筆や卒論発表にしっかりと取り組むことが出来ました。卒論発表では緊張したが、途中からは話し方や視線を意識するようになり、発表練習となり本番で活きたのだと考えます。私がいた会場で、あんなに身振り手振りをした発表者は自分だけだったのではないかと密かに思っています。これらの経験は他の研究室で出来なかった経験であると考えます。

ええ。社会人になってもこの経験を活かして頑張りたいです。三年生にも「田中研究室で頑張ってきた良かった」と思える1年を過ごしてほしいです。最後に、お忙しい中最後までご指導いただきました田中先生及びいつも助けてくれた岡田さん、須谷さん、一緒に協力して頑張ってきた研究室の皆さんに感謝の意を表します。

(島津直道)



藤長新

研究室生活を振り返って私は3年後期に田中研に配属されました。Koro開発に不可欠なソフトウェアを通して簡単なプログラムングの講義を受けてから、初めの目標として3月の卒業生のための卒業式用Koroプログラムを作成することにしました。初めてのKoroの開発は難儀で、わからないことが多くありましたが、院生の手伝いもあり何とか形にするのができ、大変嬉しかったことを覚えています。次に、自分の研究テーマを決めを行いました。Koro開発をメインにしている研究室に配属されたのだから、Koroに関するテーマにしようとは決めていたので、研究テーマが決まるとは早かったです。田中

先生から研究テーマになりそうなもののリストを渡され、私は卒業生が開発した図書館案内システムの改良というのを選びました。第一目標としては、夏休みのオープンキャンパスまでに形にするといったものでした。初めは何かから手を付けた方がいいからと難航しましたが、毎週の進捗発表で、

田中先生、院生、ゼミ生から助言を貰い、少しずつ形になっていきました。8月のオープンキャンパスまでには形にはなりませんが、とても「以前より改良できました」とは言えず、新システムのお披露目は断念しました。しかし、10月にもオープンキャンパスはあり、そこがラストチャンスと思

い、今まで自分が作成してきたものとは別のアプローチで新たにシステムを作成したのは作成できたと感じました。しかし、やはり卒業生が作成したシステムのほうが出来栄がいいとは心の隅で感じていました。そこから研究生、院生と細かく連携を取り、進捗発表で田中先生からも助言を貰いつつ、改良を重ねていき、無事完成させることができました。卒論発表会では緊張はありましたが、それほど苦労はせずに乗り切ることができました。これも毎週ゼミで進捗発表をしていたおかげだと思

研究室対外予定

2月19日まで グランフロントで入場者カウンタ実演展示▼23日〜24日 ゼミ旅行(金沢方面)▼28日〜3月3日 田中教授、NCS P(グアム)で論文発表▼3月8日 女子栄養大学金子教授ら、体操システムの見学に来校▼17日 田中教授と岡田君、鹿児島大学で甲南・鹿児島コンピュータビジョン研究会に参加、発表

(藤長新)

橋本渉

1年半前、ゼミ配属され新しくシステム開発の方法やその他色々な新しいことを学びました。そして数ヶ月後ついに実際のシステム制作でした。院生の方々に力を借り、自分たちが関わってシステム制作の流れなどを勉強しました。コンポ

ネットを繋ぎ合わせた時、コントローラーからの入力でしたがKoroが動いた時にはすごく嬉しかったことを覚えています。その時のプログラムは、一部分を見ていくと簡単なことの積み重ねでその後の卒業研究に感じていたプログラム面での不安が少しだけ解消されました。

そして卒業研究の時期が来ました。研究室には馴染みのない様々なセンサーがありましたが、その中でLampotionは3年生前期のプレゼミで少しだけ触れたことがあったので、それを使いたいと思

いました。サンプルプログラムを動かして画面内の3次元空間にあるものに、センサーにより検知した手で触れることに惹かれ、Koroをそこに表示し触ると面白いのではないかと考え制作を開始しました。しかし3次元空間への表示は、色々な問題に悩まされ、うまくいかなかったため2次元空間に表示することに妥協しました。私の研究が本格的に始まったのはここ

からです。今後は、この一年を振り返りたいと思います。私は以前こちらにも書かせていただいた通り、WebAPIを利用した気象案内システムの構築を研究内容としていました。図書館に訪

れた事がある方はご存知かもしれませんが、現在新しい図書館案内システムの導入と共に、私のシステムも無事に稼働し、図書館来場者に気象情報を日々伝えていきます。例えば、Pythonを使用したシステム作りや毎週の進捗発表、慣れない卒論執筆など色々苦

労してきた1年だったなあなどと思いつつ、発表当日最後の確認のため、研究室に向かいました。研究室に着くと、すでに自分以外のゼミ生は全員そろっていて、何かしら作業をしていました。こうして研究室に皆集まることもないのだなと思うと、感慨深いものがあります。徐々に高まる緊張感を抑えつつ、皆と会話をしたり、コーヒーを飲んだりしつつこの1年間で、

自分自身が研究室でコーヒーを飲むのが日課となっていました。集合時間まで過ぎました。発表は梅谷研、そ

ではありませんでした。ですが、今ではこの研究室に配属されて、田中先生の元で研究をすることができています。田中先生、些細なことでも聞いていただいた須谷さんと岡田さん、一緒に研究を進めてきた同期の皆に、この場をお借りして感謝を申し上げます。ありがとうございました。(松田脩平)

松田脩平



先月の30日、我々甲南大学知能情報学部の4年生による、卒業研究発表会がありました。4年間の大学生活において学んだことの集大成とも言えるイベントです。今回はこの一年を振り返りたいと思います。私は以前こちらにも書かせていただいた通り、WebAPIを利用した気象案内システムの構築を研究内容としていました。図書館に訪

れた事がある方はご存知かもしれませんが、現在新しい図書館案内システムの導入と共に、私のシステムも無事に稼働し、図書館来場者に気象情報を日々伝えていきます。例えば、Pythonを使用したシステム作りや毎週の進捗発表、慣れない卒論執筆など色々苦

労してきた1年だったなあなどと思いつつ、発表当日最後の確認のため、研究室に向かいました。研究室に着くと、すでに自分以外のゼミ生は全員そろっていて、何かしら作業をしていました。こうして研究室に皆集まることもないのだなと思うと、感慨深いものがあります。徐々に高まる緊張感を抑えつつ、皆と会話をしたり、コーヒーを飲んだりしつつこの1年間で、

自分自身が研究室でコーヒーを飲むのが日課となっていました。集合時間まで過ぎました。発表は梅谷研、そ

ではありませんでした。ですが、今ではこの研究室に配属されて、田中先生の元で研究をすることができています。田中先生、些細なことでも聞いていただいた須谷さんと岡田さん、一緒に研究を進めてきた同期の皆に、この場をお借りして感謝を申し上げます。ありがとうございました。(松田脩平)

ではありませんでした。ですが、今ではこの研究室に配属されて、田中先生の元で研究をすることができています。田中先生、些細なことでも聞いていただいた須谷さんと岡田さん、一緒に研究を進めてきた同期の皆に、この場をお借りして感謝を申し上げます。ありがとうございました。(松田脩平)

ではありませんでした。ですが、今ではこの研究室に配属されて、田中先生の元で研究をすることができています。田中先生、些細なことでも聞いていただいた須谷さんと岡田さん、一緒に研究を進めてきた同期の皆に、この場をお借りして感謝を申し上げます。ありがとうございました。(松田脩平)

編集後記

4回生のみならず、まずは卒論発表会お疲れ様でした。それぞれの個性が出て、とても良い発表だったと思います。学生生活は残り少ないですが、ぜひ後悔のない期間にしてください。さて、Koro研もメンバーがガラッと入れ替わってしまっています。みんな4年生のはじめの方は、どうやってKoroを動かせばいいのかわからないところから始まります。おそらく来年度もそうなると思います。ですが、できる限りそうならないように今のうちからフォローをしていきたいと思っております。そして、1年後には僕もみんなのように自信を持って卒業していきたいと思

(岡田航大)